

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館
ニュース

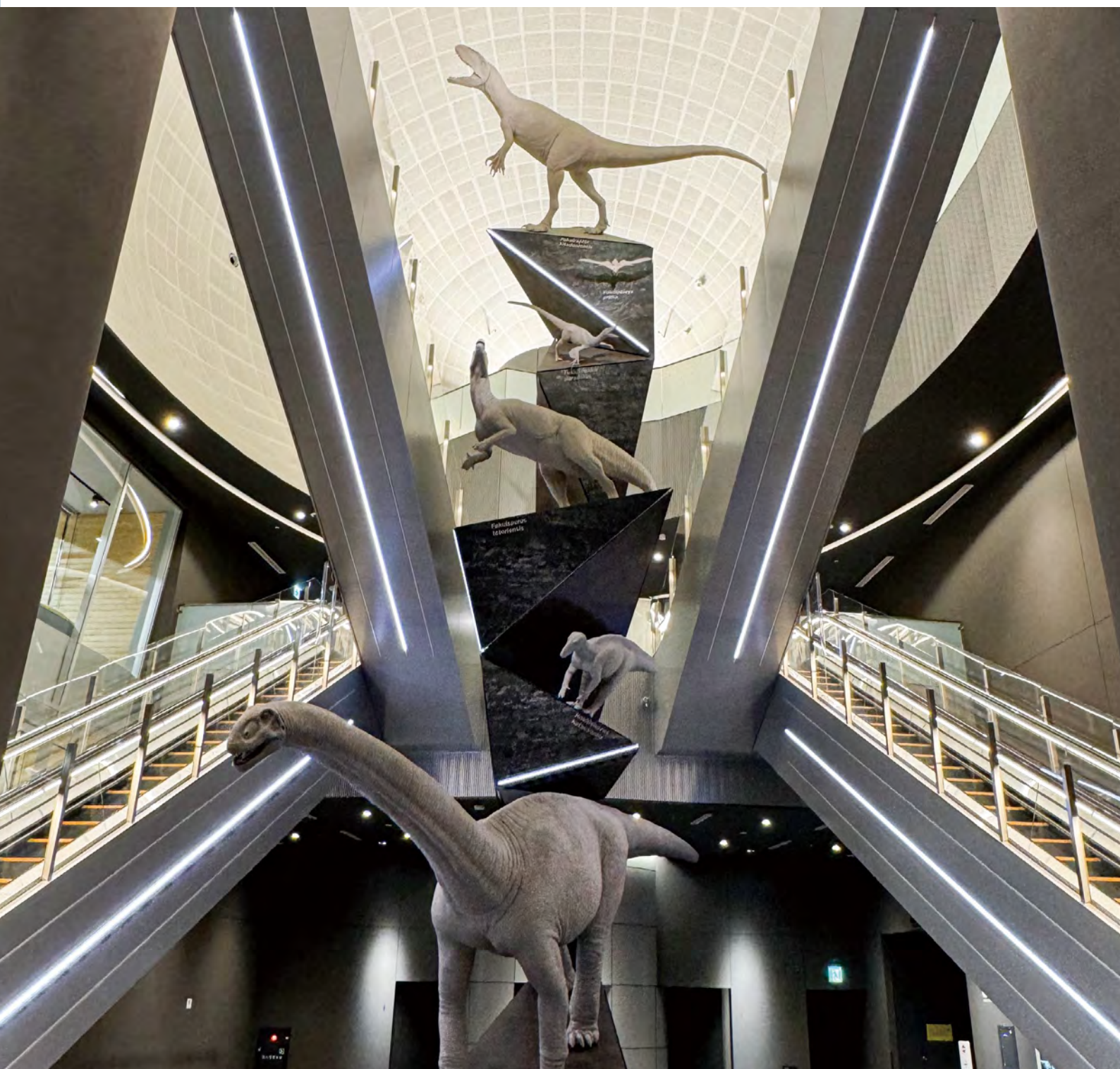
第71号

2024.3.29

福井県立恐竜博物館

特集:恐竜博物館この一年のあゆみ～2023年度恐竜博物館の動き～

- 目次 ▼博物館トピックス「恐竜博物館この一年のあゆみ ～2023年度恐竜博物館の動き～」… 2～3
▼オダイバ恐竜博覧会2024 … 4～5 ▼博物館学びの講座紹介／おすすめ標本紹介 … 6
▼2024年度特別展紹介 … 7



恐竜博物館
トピックス

恐竜博物館この1年のあゆみ

2023年度 恐竜博物館の動き

企画展「THE恐竜in福井 ～恐竜博物館を飛び出した 恐竜たち～」

臨時休館中の恐竜博物館のリニューアルオープンのPRや誘客促進対策として、福井県産業会館で企画展「THE恐竜in福井～恐竜博物館を飛び出した恐竜たち～」を開催しました。

- 期間：2023年4月21日(金)
～5月14日(日)
- 場所：福井県産業会館
1号館展示場



テープカットの様子

ティロサウルス全身骨格 組上げ作業公開

2階「生命の歴史」ゾーン「海の爬虫類」展示エリアに設置される全長13mのティロサウルス全身骨格の組上げ作業を公開しました。この標本は令和3(2021)年度特別展「海竜～恐竜時代の海の猛者たち～」でも展示し、好評を博したものです。



ティロサウルス組上げ作業の様子

ブラキロフォサウルスの 設置作業公開

常設展示リニューアルの目玉のひとつとして、1階「恐竜の世界」ゾーンに日本初公開となるブラキロフォサウルスの実物ミイラ化石を設置しました。この標本はアメリカのグレートプレーンズ恐竜博物館から2033年までの期間限定で借用するもので、保存状態の素晴らしさからギネスブックにも登録されています。



ブラキロフォサウルス

リニューアルオープン PRキャラバン隊

リニューアルオープンを広くPRするため、中京、関西、首都圏の各都市において「リニューアルオープンPRキャラバン隊」を実施しました。

- 中京地区
期間：2023年5月26日(金)～28日(日)
場所：ららぽーと名古屋みなとアクルス (愛知県名古屋市)
- 関西地区
期間：2023年6月9日(金)～12日(月)
場所：神戸ハーバーランドdumie (兵庫県神戸市)
- 首都圏
期間：2023年6月17日(土)～22日(木)
場所：モラージュ菟蓐 (埼玉県久喜市)
期間：2023年6月24日(土)～7月2日(日)

場所：横浜ワールドポーターズ
(神奈川県横浜市)



PRキャラバン隊の様子

リニューアルオープン

大規模増改築工事を経て、恐竜博物館の開館記念日である7月14日にリニューアルオープンしました。



テープカットの様子

記念式典に続き開館イベントを行い、リニューアルオープンの日付入り銀テープを飛ばし、一般のお客様とともにリニューアルオープンをお祝いしました。



開館イベントの様子

また、記念イベントとして、恐竜ライブショー「DINO-A-LIVE in 恐竜博物館～蘇った福井の恐竜たち～」を開催しました。

- 恐竜ライブショー
期間：2023年7月22日(土)
～8月20日(日)



恐竜ライブショーの様子

リニューアルオープン後の入館者数10万人突破

7月14日(金)のリニューアルオープンからの入館者数が、22日目となる8月4日(金)に10万人を突破し、ご来館いただいたお客様たちと福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」がくす玉を開いてお祝いしました。



セレモニーの様子

野外恐竜博物館

野外恐竜博物館を8月8日(火)に再開し、ツアー出発式を行いました。当初、本館のリニューアルオープンに合わせて7月14日(金)に再開する予定でしたが、大雨による被害のためツアーの再開が遅れる事態となり、営業期間は11月5日(日)までの84日間となりました。その間に利用されたお客様は14,450人で、通算の利用者数は、約27万人となりました。



ツアー出発式の様子

第四次恐竜化石発掘調査

勝山市北谷町の発掘現場において、8月10日(木)から2023年度の第四次恐竜化石発掘調査を実施しました。同調査は、2013年からスタートし、今年

度が11年目になります。当初は7月24日(月)に開始する予定でしたが、大雨の被害により開始を延期していました。

【恐竜化石発掘調査】

- 期間：2023年8月10日(木)～9月9日(土)
- 調査地：勝山市北谷町杉山



発掘調査現場

Osaka Metroとのタイアッププロモーション

Osaka Metroとのタイアップ企画として、Osaka Metroの5駅に設置されたスタンプラリーポイントを巡る「メトロ恐竜探検スタンプラリー」を実施しました。

リーフレットやスタンプ設置場所、デジタルサイネージ、SNSにより当該タイアップ企画と恐竜博物館リニューアルの情報をPRしました。スタンプラリーには3,168名が参加しました。

- 期間：2023年8月11日(金祝)～10月15日(日)
- スタンプ設置場所：扇町駅、天満橋駅、日本橋駅、大正駅、西梅田駅

新属新種恐竜「ティラノミムス・フクイエンス」

勝山市北谷の恐竜化石発掘現場から発見されたオルニトミモサウルス類の化石が新属新種として認められ、「ティラノミムス・フクイエンス(福井産の暴君(ティラノ)もどき)」と命名されました。



ティラノミムス生体復元模型



記者発表の様子

リニューアルオープン後の入館者数50万人突破

7月14日(金)のリニューアルオープン以降の入館者数が、10月27日(金)に50万人を突破し、ご来館いただいたお客様と福井県公式恐竜キャラクター「ジュラチック」がくす玉を開いてお祝いしました。50万人到達に要した日数は105日でした。



セレモニーの様子

通算入館者数1300万人突破

2000年7月14日(金)以来の通算入館者数が1月6日(土)に1300万人を突破し、ご来館いただいたお客様へ感謝の気持ちをお伝えする報告会を開催しました。



報告会の様子

北陸新幹線福井・敦賀開業記念イベント

3月16日(土)の北陸新幹線県内開業を記念して、記念講演会や鉄道模型ジオラマの展示を行いました。また開業日に入館のお客様全員に博物館オリジナルシールをプレゼントしました。

(高山泰昌、松山知美)

オダイバ 恐竜博覧会 2024

福井から“ヤツラ”が
新幹線でやってくる!

2024年 (水・祝)

3.20-5.6
開館時間: 10:00~18:00 (最終入場17:30)

フジテレビ本社屋



いよいよ、東京にて、「オダイバ恐竜博覧会2024」(以降オダイバ恐竜博と呼びます)が開催されます!この恐竜展は、お台場にあるフジテレビ社屋を“乗っ取り”、完全恐竜化してしまう大きな企画展です。新幹線福井延伸に合わせ、お台場では初となる本格的な恐竜展示を行います。

“お台場”は歴史的に重要な場所です。今からちょうど170年前の1854年、提督ペリーが再訪するのにあわせ、その一部が完成しました。そのお台場に、いよいよ黒船ならぬ、恐竜が来航します。



2つの会場跡(矢印で示したところ)

本展示では、恐竜を楽しんでもらう、というのが大きなコンセプトです。ですが、そのみならず、この機会に福井をPRしてしまおうという魂胆も見え隠れします。まずはロゴ。まさにフジテレビと福井県のコラボを示

したものになります。北陸新幹線が周りに配置され、その中央には、福井県とフジテレビの社屋が描かれています。そして、恐竜は、フクイラプトルと本展示の大きなトピックであるスピノサウルスが背中合わせで大きな口を開けています。では、福井県の両側にある化石は何でしょう?両方とも、福井県大野市で発見された、福井県を代表する化石です。まず、三葉虫は、シルル紀のエンクリヌルス類という非常に古い種類です。そしてアンモナイトは、日本で初めて発見されたジュラ紀のアンモナイト、シュードニューケニセラス・ヨコヤマイです。わかりましたか?これを機会に、ぜひ大野市へ実物を見に行っていたいただければと思います。



オダイバ恐竜博覧会2024ロゴ

すでにロゴからこの力の入りようです。では展示はどうなのでしょう

う?フジテレビ社屋は非常に大きく、その中の3つの場所を占領して展示を行います。

まず、1階に特設された第一会場は、「え、恐竜じゃなかったの」「これが恐竜だっ!」と題し、どのような生物が恐竜であるのかという基礎知識を紹介します。プテラドンに代表される空飛ぶ爬虫類である「翼竜類」や首が長く海で生活していた首長竜などを展示。



フジテレビ社屋前の第一会場

その後には、恐竜の代表格であるティラノサウルス(ロボット)やトリケラトプス(全身骨格)が登場します。ティラノサウルスは実物大。骨格とは全く違った、本来の恐竜の脅威を体感できます。このように、展示の最初に恐竜を楽しんでもらいたいと思っています。いずれも見慣れた恐竜ではありますが、お台場のこの地に初めて降臨する恐竜の王者たち。恐竜博物館

で見る姿とは、少し違った雰囲気を醸し出しています。



第一会場の展示

次の会場へは、エスカレーターで移動します。そのエスカレーターも恐竜。側面には、ティラノサウルスの骨格が描かれており、口から入って尻尾のほうへと移動するという経路になっています。



エスカレーター側面のティラノサウルス

続いて第二会場。1階から一気に22階へと上がります。ここは、「恐竜研究最前線」。福井県立恐竜博物館で恐竜を研究している研究員が登場し、福井の恐竜を中心に、研究の最新情報をイラスト化された研究員が易しく紹介します。



築地研究員による解説

福井県が恐竜王国である理由、それは、恐竜化石が出る地層があることだけでなく、1989年から継続的に発

掘調査を行っていること。発掘調査開始以来、数万点に及ぶ脊椎動物化石を発見し、6種類の恐竜（鳥類は除く）に名前がつけられています。その最新の成果は、昨年9月に発表されたばかりの福井の新種のオルニトミモサウルス類「ティラノミムス」です。“ティラノサウルスもどき”と名付けられたこの恐竜は、恐竜の進化史に大きな影響を与えた化石で、今回、福井県外で初めてお台場で展示（レプリカ）を行います。

また、足跡化石もこのエリアに展示されています。意外と恐竜の足跡が化石として保存されるということを知らない方が多く、その重要性もあまり知られていません。福井県で発見された恐竜の足跡化石を紹介しています。

さて、最後の第三会場。フジテレビ本社ビルの球体展望室“はちたま”です。「王者の部屋」と題したこのエリアにいるのは、全長15mのスピノサウルス（実物大口ポット）。世界で初公開です。

スピノサウルスは、アフリカで発見された恐竜で、歯や頭の形がワニに類似しているのが特徴です。主に魚を食

べていた恐竜です。もちろん、ワニのように魚だけではなく、他の恐竜を襲って食べていたことでしょう。

しかし、その生態には様々な議論があり、ここ数年でその姿は大きく変わっています。発掘調査と研究の進展により、水生での生活に適応していたと考えられるようになりました（反論する意見も出ていますが）。復元姿勢も従来の2足歩行から、泳ぐのに適した姿勢に変わっています。

そこで、本展では、“スイミングスタイル”で復元したスピノサウルスとしました。実物大での迫力は、お台場でしか体感することはできません。また、“はちたま”から見える東京臨海エリアを背景とし、その景色の中を遊泳するスピノサウルスの姿を見ることができの醍醐味の一つです（写真と反対からの景色です。ぜひ現地で！）。

オダイバ恐竜博覧会2024では、本展でしか見られない標本や景色があります。皆さんを“あっ”と言わせることができるような展示です。

この春、東京でぜひ福井の恐竜に会いください。（柴田正輝）



“はちたま”で泳ぐスピノサウルスのロボット

9C 講座紹介 博物館セミナー 日付 1月14日(日) 時間 14:00~15:30
 「新種物語～ロード・オブ・ザ・シンシュ～」

新種が見つかった！と新聞などで目にしたとき、どのような印象を受けるでしょうか？今日までに、恐竜も含め様々な種類の華々しい新種発見の記事を拝見しますが、実際に新種を発見したときの様子は、中々知る機会が少ないなど感じます。今回のセミナーは、そんな「新種発見」の瞬間に焦点を当てて、動物を名付けるという研究の基礎から、新種を見つけて命名する瞬間の研究ものがたりを、実体験に基づいて赤裸々にお話しさせて頂きました。

研究ものがたりということで、発表は某ファンタジー映画調のデザインで行いました。あまり馴染みの無い専門的な話も多かったと思いますが、学生からご年配の方まで幅広い方々から熱心に質問をいただきました。新種をめぐる研究ものがたりの「映画」を見るようにセミナーを聞いていただけたのであれば嬉しく思います。
 (安里開士)



9C 講座紹介 子ども工作教室 日付 1月28日(日) 時間 14:00~15:30
 「石で恐竜の絵をかこう！」

道端にある“石ころ”を使って、アスファルトなどの地面に絵を描いたことはないでしょうか。今回はこの遊びに着想を得て、石の“硬さ”に着目した教室を開催しました。

まず、博物館周辺で見つけた数種類の石を削る実験をしてもらいました。石によって硬さが異なることや、削れて出てくる粉の色が違うことが分かったと思います。次に、とても軟らかい鉱物である滑石^{かつせき}を用いて、恐竜クイズに挑戦してもらいました。滑石をチョークに、小さい黒板を解答フリップに見立て、ヒントから連想される恐竜をイラストで答えていきます。滑石は大変書き味がよく、子どもたちは石を使っていることを忘れるぐらい夢中で絵を描いてくれました。この教室を通して、福井の恐竜を学びつつ、石の“硬さ”について知っていただけたかと思います。おうちに帰った後も、道端の“石ころ”たちに興味を持ってもらえていたら嬉しいです。
 (小泉早千穂)

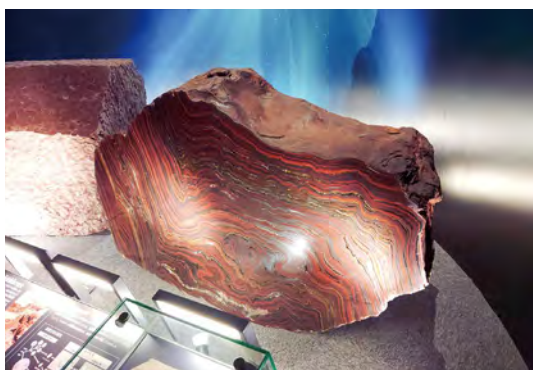


9C 標本紹介 縞状鉄鉱層

展示室2階「生命の歴史」コーナーの入口付近に、しましま模様の大きな石が展示されています。これは縞状鉄鉱層といって、主に酸化鉄とケイ酸塩鉱物が降り積もってできた堆積岩です。

なぜ化石も入っていない岩がこんな所に展示されているのでしょうか？実は、この岩石は地球生命にとって非常に重大なイベントの証拠になっているのです。

現在の地球は大気の約21%が酸素ですが、地球誕生から20億年以上、地球上に酸素はほとんどありませんでした。約



25～20億年前に、初めて地球の酸素濃度が大幅に上昇する「大酸化イベント」が起き、酸素濃度が大気の10%程度に達しました。それまでの地球では酸素を利用しない生物が主流でしたが、ここからは酸素を使う生物が急速に進化を遂げていくことになります。

その大酸化イベントでできたのが縞状鉄鉱層です。深海の熱水などから供給される鉄やケイ素は、酸素に乏しい時代はそのまま海中に溶け込んでいました。大酸化イベントで増加した酸素がそれらと結びつき、不溶性の酸化鉄やケイ酸塩鉱物となって海底に沈殿。ついには、世界中に膨大な縞状鉄鉱層を形成したのです。ぜひそんな太古の大事業に思いを馳せながらご覧ください。
 (静谷あてな)

バッドランドの恐竜たち

～北アメリカの1億年～

令和6年度特別展

2024.7.12 金 - 11.4 月・祝

今年は、最初の恐竜であるメガロサウルス (*Megalosaurus*) が報告された1824年から、ちょうど200年目にあたります。メガロサウルスが見つかったのはイギリスでしたが、その後から現在まで恐竜研究の主な舞台となったのが北アメリカ大陸でした。ティラノサウルスやトリケラトプスなど誰もが知っている有名な恐竜の産地がほぼ北アメリカであることは、その証拠ともいえるでしょう。

そこで、恐竜博物館がリニューアルオープンして初めての特別展となる令和6年度は、北アメリカの恐竜に改めてスポットライトを当てて、最新の情報を織り交ぜながら恐竜の化石産地や進化などを紹介します。

北アメリカには恐竜の化石産地がたくさんありますが、その多くは植物のあまり生えない乾燥した荒野で「バッドランド (Badlands)」と呼ばれています。そんなバッドランドの化石産地の中でも、今回はおもにアメリカ・

ユタ州とカナダ・アルバータ州に注目します。

アメリカ・ユタ州のゾーンでは、アロサウルスやステゴサウルス、カマラサウルスなどが多数発見されている後期ジュラ紀のモリソン層を紹介합니다。ユタ州には、隣接するコロラド州にまたがる恐竜国定公園があり、現地ではボーンベッド (骨化石密集層) が一般に展示公開されています。特別展ではその一部を再現するので、実際の化石産地のスケール感を体感することができます。モリソン層を代表するアロサウルス2種 (アロサウルス・フラギリスとアロサウルス・ジムマドセニ) やカマラサウルス等の竜脚類の実物化石も展示します。

さらに前期白亜紀のシーダーマウンテン層やクローバリー層からはモアボサウルスやアビドサウルスといった日本初公開となる竜脚類もやってきます。

カナダ・アルバータ州の

ゾーンでは、後期白亜紀を代表するダイナソパーク層などアルバータ州や隣接する地域から発見された恐竜たちを紹介します。アルバータ州にあるロイヤルティレル博物館は、2001年から当館と姉妹提携を結ぶ古生物学の博物館で、当館の第1回目の特別展のテーマにもなりました。そのロイヤルティレル博物館からは「ブラックビューティー」と呼ばれるティラノサウルスの頭骨化石や、非常に保存状態の良いゴルゴサウルスの全身骨格化石がやってきます。現在はティレル博物館でもバックヤードに収蔵されている貴重な標本ですので、是非この機会に特別展会場まで見に来てください。

(蘭田哲平)



ユタ州のボーンベッド



ブラックビューティー頭骨化石



ゴルゴサウルス全身骨格化石



オダイバ恐竜博覧会 2024

福井から"ヤツラ"が
新幹線までやる!
2024年 (木・祝)

3.20-5.6 (日・祭)
開催時間: 10:00~18:00 (最終入場17:30)
フジテレビ本社屋

ODAIBA
DINOSAUR EXPO
2024



X(旧Twitter)にて、最新情報配信中!
ぜひフォローしてください。
<https://x.com/FukuiDinosaurs>

